

練馬区「映像文化と教育の連携事業」

6年生に送る メッセージアニメをつくろう

ねらい

協力してひとつの作品を仕上げる活動を通して、協働・交流しながら学び合えるようになってほしい。



活動の流れ

卒業する6年生に送る「ありがとう6年生 夢へとはばだけ」というメッセージを、アニメで表現するプロジェクト。グループごとに1文字ずつ分担してアニメを制作。途中段階では、KOMAKOMAで撮影し、アドバイスしあうことで、作品をより良いものへの仕上げていく。



テーマ設定はとにかくシンプルに！

過去には環境問題などをテーマにしたこともあったが、子どもたちにも教員にも負荷が高い。とにかくシンプルなテーマ設定が大事！



プロから学ぶアニメのつくり方

2コマ

プロのアニメーターの方にきていただき、練馬区の映像文化のこと、アニメがどのように作られているかを教えてもらう。簡単なアニメ制作の体験も行い、これから始まる活動のイメージを持つ。

グループで分担して絵コンテ・原画

7-10コマ

「ありがとう6年生 夢へとはばだけ」を、1文字ずつ分担。グループでどんなストーリーで文字を表現するかを話し合い、絵コンテを作成。絵コンテにそって、原画を1枚ずつ描いていく。



子どもたち同士のアドバイスで気づきを！

お互いのアドバイスでは、「これではわからない」など、率直かつ厳しい意見交換もあった。途中で撮影してみると、教員がうながさずとも、自分たちで気づいて軌道修正していくことができていた。

撮影してアドバイスしあう

ブラウザで利用できるアプリ「KOMAKOMA」を活用し、原画を撮影。各グループの作品をGoogleドライブ上で共有し、視聴してお互いにアドバイス。

「KOMAKOMA」は
こちらから→



だれかに喜んでもらうために！

「6年生に喜んでもらおう！」という目標設定も大事なポイント。誰かにみてもらうからこそ、喜んでもらいたい、ちゃんとつくりたいという意識につながった。締め切りがあることの意味も伝わる。

アドバイスを活かして完成させる！

もらったアドバイスを活かしながら、修正し、作品を完成させる。最後の編集は技術サポートを活用。

実施した先生より



Voice

6年生のためにアニメを制作するという「発表の場」があったことで、達成感を感じることができたのではないかと。また、グループで協力したり、お互いにアドバイスあって仕上げていくことで、チームワークを高めることができた。お互いに得意・不得意があっても、それをカバーしあいながら協働して学び合える子になって欲しい。

問い合わせ

練馬区 地域文化部文化・生涯学習課文化芸術担当係
TEL 03-5984-1358 FAX 03-5984-1228

練馬区「映像文化と教育の連携事業」

身近な産業を題材につくる側の視点を知らう

ねらい

身近なアニメが、どのように企画され、作られているのかを知り、自分たちでショートアニメの制作に挑戦する。



活動の流れ

ゲストからストップモーションムービーの作り方、アプリの使い方を学んだ後、1人1作品、オリジナルのストップモーションムービーを制作し発表する。

ストップモーションムービーのつくり方を知る 1コマ

ゲスト講師から、ストップモーションムービーのつくり方を学ぶ。コマ割やアングルなど、専門用語とともに撮影の「視点」を教えてもらい、KOMAKOMA（ストップモーションムービー制作ができるアプリ）を使いながら実践。ものが動いて見える仕組みの理解にも。

「KOMAKOMA」は
こちらから→



社会とのつながりを感じられる題材

アニメは5年生では社会科とつながりがある題材。子どもたちにとっても身近にあるもの。



撮影の視点に気づき、実際にやってみる！！

「FIX」「ズームイン・アウト」などの用語は、子どもたちの撮影実践の中でもよく出てきた。つくる側の視点や考え方に、具体的に触れる機会になったのではないかな。

作品の企画を構想する 8コマ程度

撮影を実践する前に、ワークシートを使って、どんなストーリーにするのか、どんな画面にするのか、構想を練った。

工夫して撮影する

KOMAKOMA を活用して撮影していく。色紙を使ってキャラクターを少しずつ動かしていくなど、いろいろな工夫も。



Google スライドとの併用でプレゼンテーション

KOMAKOMA は 99 枚までしか撮影できないため、それを上回る作品の場合は、起承転結にわけて撮影し、書き出した Gif データを Google スライドに貼りつけるなどした。最終的な発表のシーンで、スライドで説明をしながら上映するなどした。子どもたちの作品は、作品単体ではわかりにくいこともあるため、スライドがそれを補助するものとなった。

作品発表会

どのような作品を構想したのかを発表した上で、作品上映。

実施した先生より



Voice

映像をみる側ではなく、つくる側の視点や考え方・大変さがわかったのではないかな。子どもたちの視野が広がったように思う。表現する力や段取りする力は、今後の学習に活かせるのではないだろうか。身近な練馬区の歴史や映像文化について知る機会にもなったと思う。

問い合わせ

練馬区 地域文化部文化・生涯学習課文化芸術担当係
TEL 03-5984-1358 FAX 03-5984-1228

練馬区「映像文化と教育の連携事業」

自分の描いた絵が動く?! を体験しよう

ねらい

絵を描いて終わり、ではなく、絵が動くことを楽しんでほしい。自分の絵を活かして将来につながることに気づいてほしい。

活動の流れ

マンガクラブの活動。ふだんは自分の好きな絵を描いていることが多いが、それらをアニメという形で動かしてみる体験の時間に。ゲスト講師からアニメについてのお話を聞いた上で、ループアニメ（繰り返し動くアニメ）に挑戦した。



プロのアニメーターに聞いてみよう!

1コマ



たった2枚の絵でも動いて見えるというおもしろさを一緒に体験し、ループアニメの作り方を教えてもらう。



練馬のことやアニメの歴史も学ぶ

アニメーターの方からは、アニメが動く原理を教えてもらうだけでなく、練馬区の映像文化・アニメの歴史について知る機会にも。

オリジナルアニメをつくってみよう!

2コマ

1人1作品のループアニメづくりに挑戦! ループする(繰り返す)ってどういうことかを考えながら1枚ずつ絵を描いていく。1秒で8枚が必要なので、けっこう大変・・・冬休みの宿題になった子も。

(※描いた原画は技術サポートを利用してアニメに加工。)



「ループ」の理解がむずかしいかも?

8枚でやっと1秒なのに、絵本のよ様なストーリーの絵を描いてしまう子もいるけれど、ループすることが理解できれば、アニメの入門としてちょうどいい題材のはず。

動いて見えるかな? みんなで上映会!

1コマ

完成したアニメ作品は、みんなで上映会。自分の絵が動いていると「すごい!」という声も上がってくる。がんばって描いても思ったように動いていないこともあり、気づきや学びの機会になる。



動かしてみるから発見できること

がんばって描いても思ったように動いていないこともあり、上映会は気づきや学びの機会になる。

実施した先生より



Voice

子どもたちはゲスト講師の授業はとても楽しみにしている。絵を描きたい子が多いクラブ活動なので、「絵をうまく描くコツを知りたい」という子や、アニメの仕事に興味がある子もいる。なので、もっともっと話を聞きたい、知りたいという想いもあり、もう少し時間があれば…と思う。

問い合わせ

練馬区 地域文化部文化・生涯学習課文化芸術担当係
TEL 03-5984-1358 FAX 03-5984-1228

練馬区「映像文化と教育の連携事業」

学校紹介ムービーを制作し 周年行事で上映しよう

ねらい

学校設立 50 周年式典をゴールとした映像制作プロジェクトに挑戦したい。

活動の流れ

希望者を募って実行委員会を組織。グループごとのテーマを設定し、いろいろな切り口から学校を紹介する映像制作に取り組む。映像の撮影や編集には個人のタブレットを使用。途中段階でプロの方からのアドバイスをいただいた。

実行委員会で分担して映像制作

実行委員会を結成。夏休み中に集まれる人が集まり、分担して映像制作を進める。分担は「校舎」「委員会」「学校行事」「部活動」「歴史」など。

プロからアドバイスをもらう



映像制作のプロの方に、途中版の映像をみてもらい、アドバイスをいただく。グループごとに丁寧に個別のアドバイスをいただくことができた。

映像の修正・完成へ！

アドバイスを受けて、修正し完成させる。
(※最終的に 1 本に統合する編集作業は教員が担当したが、技術サポートを活用することも可能。)

※生徒が使用したアプリは
FilmMakerPro



周年行事で上映

周年行事で上映。たくさんの人に作品をみてもらうことができた。



式典の段取り練習の 負担を減らせるかも？！

周年行事で式典当日にプレゼンなどを行うと、段取り確認などの事前準備が意外と大変。映像であれば、当日は上映するだけなので、少しでも負担が減らせるのではないかという意図もあった。もちろん、制作作業には時間がかかったが…



プロからのアドバイスで 「視点」が切り替わる

プロの方からのアドバイスは、「文字の表示時間が短すぎて見えない」といったことから、トランジションの扱い方といった技術的なアドバイスも。どのグループにも共通していたのは、「何を見せたいのか」「どんな流れの物語にするのか」といった点。観る人の立場から客観的に考えることの重要性を実感することとなった。



実施した
先生より



Voice

最初は自分たちだけで映像を制作していたが、途中でアドバイスをいただき、誉めてもらえたことで、モチベーションもあがった。視点が客観的なものにガラリと切り替わったのは大きかった。使用した映像編集のアプリは、ストレスなく使えるものだった。協働編集ができればもっとよかったのだが…。

問い合わせ

練馬区 地域文化部文化・生涯学習課文化芸術担当係
TEL 03-5984-1358 FAX 03-5984-1228